地域協働

海野町商店街（海野町商店街振興組合）

長野県上田市

大学・市・商工会議所と連携 誘客と空き店舗改善に取組む

取組の背景　3つの大きな課題 集客力向上と空き店舗活用

同商店街の課題は大きく分けると3つあった。

1つ目は、他地域からの顧客吸引力の向上である。車社会の発展に起因した核店舗の中心商店街からの撤退や、大手ショッピングセンターやロードサイドショップの進出に伴い、広く県東部を商圏としていたが、顧客を呼び寄せる力が低下していた。

2つ目は、商店街への観光客の誘客である。近隣の史跡上田城は、NHK大河ドラマ「真田丸」放送を機に全国的に認知され、多くの観光客が訪れている状況であるが、商店街への回遊が少ない状況であった。

3つ目は、空き店舗の有効活用である。2007年から空き店舗数について定期的に調査を行っているが、2015年4月時の商店街の空き店舗率が20%を超えており、さらなる空き店舗の有効活用方法を見出す必要があった。

取組の内容　買い物・交流・地域発信 3つの役割を明確化

同商店街は、地域と人々の交流を創るために、商店街の役割を「買い物の場」「交流の場」「地域発信の場」と位置づけ、「そこに住み、そこに働く人々が、生き生きと暮らせる商店街」を基本コンセプトとして策定した。商店街で取組む各事業は、商店街内の部会が中心となり、地元上田市、上田商工会議所、周辺商店街と連携して実施している。

同商店街の3つの課題である、「他地域からの誘客」、「旅行者の商店街誘客」、「空き店舗の有効活用」に対してはそれぞれ以下のように対応している。

1つ目の「他地域からの誘客」には、「上田七夕まつり」を活用している。様々なイベントを参加型にすることで、誘客数を伸ばそうと取組んでいる。具体的には、開催までは毎週地元大学生とワークショップを開催し、七夕まつり内のイベント「志まん焼き（上田市の名物）の早食い大会」を企画した。他にも、住民や外部団体との連携を進め、地域に暮らす親子3世代が楽しめるものとすることで、賑わいのあるまちづくりの推進及び他地域からの誘客につなげている。

2つ目の「旅行者の商店街誘客」には、地元ゆかりの真田氏等をテーマにした絵や物語、短歌を描いた「灯篭」22基を商店街の通り沿いに設置し、地域住民と来訪者との交流の場、癒しの空間を形成している。また灯篭には、市民団体が制作した切り絵をはめ込むことで、商店街メンバーと市民団体の会員の協力関係を構築した。

3つ目の「空き店舗の有効活用」では、海野町商店街内の空き店舗活用事業として設置した、起業希望者に対しての「チャレンジショップ」への出店を後押しし、フォローをする事で空き店舗対策を実践している。また、振興組合としての事業として、「海野町ふれあいサロン」の管理、海野町会館に設置した「赤ちゃんステーション」の運営を行い、それにより高齢者や子連れ家族に集う場所を提供している。

七夕まつり内のイベント「志まん焼き（上田市の名物）の早食い大会」

取組の成果　他地域と旅行者の誘客成功 今後は空き店舗活用を改善

「他地域からの誘客」に関しては、上田七夕まつりをうまく活用することができた。高校生や大学生、地域住民が企画段階から参加するようになり、若い来場者が増加した。昨年は3日間で延べ4万人が来場し、市内外からの誘客につながっている。

「旅行者の商店街誘客」に関しては、灯篭設置前に比べて商店街の歩行量が19%増加する調査結果が得ら

れた。海野町の通行量調査では、2015年3月では945人だったが、2016年1月に灯篭を設置し、2017年3月には1,120人にまで増加した。

「商店街の空き店舗活用」に関しては、過去3年で7店舗が新規出店したが、6店舗が閉店した。今後、国の地方創生推進交付金を活用した「まちなか創業空き店舗活用事業」を官民一体で進めていく。

真田氏等をテーマにした絵や物語、短歌を描いた「灯篭」

七夕まつりの様子

実施体制

「学園都市・上田」の拠点として「まちなかキャンパスうえだ」が2016年7月に商店街内に設置された。これは、上田市内の4大学と地域が連携する場として、また学生と市民の交流の場としての役割を担っている。

商店街では、この施設と連携し、大学・市・商工会議所・商店街が参加する「ワークショップまちづくりプロジェクト」を立ち上げた。年20回程度のワークショップを通して、既存の事業・イベントのあり方を地域の学生とともに見直しを行っている。学生目線で「まち」を知ってもらい、中心市街地のあり方を地域の若者とともに考える場とするとともに、事業を市民参加型とするきっかけを創出している。

学生とのワークショップ風景

キーパーソンからのコメント

新事業を通じて地域と人々の交流を実現

海野町商店街はここ2～3年新規事業などの新しい風も吹き始めています。

子育て世代の女性のコワーキングスペース、民間の文化施設、整骨院、インスタ映えするカフェ等々8事業所がここ海野町に活路を見出し開業し、商店街に流れを作り始めています。

新事業として同組合は、地域交流を軸とした人だまりの場・コミュニケーションの場、となるよう“コミュニティ施設”を2019年4月にオープンし、情報発信場所を兼ねた居心地の良いスペースを提供します。

商店街の役割は「買物の場」「交流の場」「地域発信の場」と考え、基本コンセプトとして『そこに住み、そこに働く人々が、生き生きと暮らせる商店街』を掲げ、快適な暮らしを提案し、地域と人々の交流を創る事業を模索し続けます。

海野町商店街振興組合
代表理事
柳島 隆二

商店街の概要

海野町商店街は、上田城を築いた真田氏が先祖の地から商人を移住させて街並みを作らせたのが起源と言われている。昭和42年に振興組合を設立した。当初は、利用者確保のための駐車場の設置や、全国でも先進的な歩行者天国である「海野町日曜広場」の取組によって、活況を極めた。しかし昭和50年代に入り、大型店が上田駅周辺に出店し始め、昭和58年には商店街の核店舗であった大型百貨店が駐車場不足から移転したことに伴い、歩行者通行量や年間商品販売額も減少傾向が続いていた。現在は、若手組合員が主導する体制に変え、地域住民や子育て世代の市民団体、学生を巻き込んだ参加型イベントを実施することで賑わいのあるまちづくりを推進している。

- 所在地　長野県上田市中央
- 人口　約16万人（上田市）
- 電話／　0268-22-9301
- FAX／　0268-23-7580
- URL　http://unnomachi.naganoblog.jp/
- 会員数　73名
- 店舗数　44店舗（小売業25店、飲食業9店、サービス業3店、その他7店）
- 商店街の類型　生活支援型
- 主な客層　主婦、高齢者／50歳代、60歳代